

## 生理検査部門システムダウン時の対応

◎高橋 ゆき<sup>1)</sup>、境田 知子<sup>1)</sup>、上道 文昭<sup>1)</sup>、天野 景裕<sup>2)</sup>  
東京医科大学病院 中央検査部<sup>1)</sup>、東京医科大学病院 臨床検査医学科<sup>2)</sup>

【はじめに】生理検査部門システム（LIS）は日常業務に不可欠であり、オーダー受信から結果提出、診療科での結果参照までを担う重要なシステムである。今回ランサムウェア対策でLISを停止しすべて紙運用で実施するという経験をしたので報告する。

【事前準備】LIS停止は急遽決定されたため、準備期間は1日であった。受付は担当者が手書きで発番するための表を作成し、順番待ちスペースを準備した。受付人員を確保し中待合にも誘導係を配置した。検査は全てオフライン体制で実施する準備を整えた。標準操作手順書にシステムダウン時の対応を記載していたため、各検査担当者はそれに沿って準備を行った。検査後診察がある場合に備えて結果お渡し用封筒を資材課に用意してもらい、全館放送の内容を電話交換室に伝え8時から20分おきに放送してもらうよう手配した。各診療科医局長へはメールで周知し、会計課へ当日会計できない患者の対応を確認した。

【システムダウン】システムダウン時間は8:00～13:00、来室患者は151名であった。心電図、呼吸機能、脳波

検査は患者IDを入力し紙出力を行い、機器に波形を保存した。エコー検査は、オフライン用結果用紙に手書きでレポートを作成しコピーを患者へ渡し、機器へ画像を保存した。電子カルテは使用可能であったため、オーダー情報は確認することができた。システム復帰後は、各機器に保存してあるデータをLISへ送信し、オーダーと括り付けを行った。未会計の患者リストを会計課へ届け、全ての業務を終了したのは18:00であった。

【考察】今回は事前準備を行う時間があったため人員の確保ができた。また患者数が普段の半数ほどだったため大きな混乱なく対応することができた。日頃よりシステムダウン時を想定した対策を検査項目ごとに手順書に記載しており、毎年見直しを行っていたことも混乱なく実施できた要因と考えられる。

【結語】システムダウン対策は様々な事例を想定し、事前に手順を決め、準備しておくことが重要である。  
連絡先：東京医科大学病院中央検査部 03-3342-6111